

## 筑波大学陸域環境研究センター出版物 の著作権について

1. 筑波大学陸域環境研究センター報告等に掲載されたすべての報文等（以下、報文等と称する）の著作権は筑波大学陸域環境研究センター（以下、本センターと称する）に帰属する。
2. 本センターの出版物に掲載された報文等の全部あるいは一部をほかの出版物に転載、翻訳、あるいはその他のために利用する場合には、本センターに文書による利用許諾を得た上で、出所明示して利用しなければならない。
3. ただし、学説の展開、および教育目的の著作の中で、本センターの出版物に掲載された報文等の一部を出所明示の上で引用する場合には、前項にかかわらず利用許諾の申請は不要とする。

# 平成 15 年度陸域環境研究センター施設利用状況

(平成 16 年 3 月 31 日現在)

	教育関係	研究関係	
学群	地形プロセス学・同実験（自然学類）	20 名 × 5 回	
	地球科学実験Ⅲ（自然学類）	30 名 × 2 回	
	〃	60 名 × 2 回	
	気候学・気象学実験（自然学類）	15 名 × 3 回	
	気候学・気象学実験（自然学類）	12 名 × 2 回	
	水文学実験（自然学類）	22 名 × 1 回	
	水文学実験（自然学類）	22 名 × 6 回	
	基礎生物学実験（生物学類）	40 名 × 2 回	
	水資源利用学実験（生物資源学類）	20 名 × 12 回	
	計測制御工学実験（生物資源学類）	20 名 × 1 回	
合計（延）数		843 名	
合計（延）数		15 名	
大学院	水文科学特別講義02AA271（生命環境科学研究科）	10 名 × 1 回	
	地形学特論（生命環境科学研究科）	5 名 × 1 回	
	地学教育実験（教育研究科）	10 名 × 1 回	
	地域調査法（教育研究科）	15 名 × 1 回	
	自然地理学特講（教育研究科）	4 名 × 2 回	
	合計（延）数		48 名
合計（延）数		25 名	
教職員	学生の指導	67 名	
	合計（延）数		67 名
	地球科学系	4 名	
	農林工学系	1 名	
	生物科学系	2 名	
	陸域環境研究センター	9 名	
合計（延）数		17 名	
他大学等	合計（延）数		0 名
	名古屋大学地球水循環研究センター	3 名	
	鳥取大学教育地域科学部	1 名	
	千葉大学	1 名	
	東京都立大学理学部大学院理学研究科	3 名	
	法政大学大学院人文科学研究科	1 名	
	国立環境研究所水土壤圈環境研究領域	1 名	
	千葉県立中央博物館	1 名	
	国立科学博物館	2 名	
	産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門	1 名	
その他	韓国建国大学理科大学生命科学科	1 名	
	エックス都市研究所	1 名	
	合計（延）数		16 名
	研究会	3 回 参加者	29 名
	談話会・講演会	15 回 参加者	323 名
	機器の利用		9 名
データの利用		12 名	
見学者			
国内		330 名	
国外		6 名	
利用者合計		1,740 名	

## 主 な 行 事

年 月 日	記 事
2003. 3. 1	李 富龍氏（韓国大邱カソリック大学、受入教官：木村富士男教授）外国人研究者として着任
2003. 4. 19	科学技術週間センターの一般公開
2003. 4.23 ~ 25	データ収録システムの改修工事
2003. 5. 1	井岡聖一郎非常勤研究員 着任
2003. 5	平成 15 年度学内プロジェクト実地調査等研究「霞ヶ浦の流域環境に関する研究」を申請
2003. 5	電子モノグラフ第 1 号「多様な地域における土壤水分モニタリングの実際」を刊行
2003. 6	研究棟玄関 リニューアル 靴箱設置
2003. 7. 3	平成 15 年度第 1 回運営委員会開催
2003. 8. 7 ~ 8	圃場観測機器の定期点検実施（カイジョウ）
2003. 8.28 ~ 29	大型水路低水槽砂泥除去
2003.10.12	ホームカミングデーでセンター公開
2003.10.23	平成 17 年度概算要求（運営費・設備費・大型設備費・施設）提出
2003.10	「陸域環境研究センター報告第 4 号」発行
2003.11.11	実験室管理方針の策定
2003.11.8	「霞ヶ浦の実地調査」桜川・恋瀬川流域のバス巡検実施
2003.12.6	「霞ヶ浦の実地調査」霞ヶ浦の流域環境を探るバス巡検実施
2003.12. 8	平成 15 年度第 2 回運営委員会開催
2003.12. 9	大型水路実験棟天井走行電車定期点検実施
2003.12.15 ~ 16	実験圃場の整備（草刈）
2003.12.17	圃場観測機器の定期点検実施（クリマテック）
2004. 1. 7	21 世紀 COE プログラム拠点形成計画調書提出（学内選考）
2004. 1.29	平成 16 年度科学技術振興調整費 課題名「アジア陸域環境・災害監視と高度実務者養成」申請
2004. 1	ユネスコ国際水文学計画 IHP 第 7 期計画の事業提案「アジア陸域環境の監視と高度実務者養成：フラックス観測・トレーサー解析・数値モデリングの融合プログラム」を提出
2004. 2.18	観測井（10 m, 20 m）の埋め戻し作業実施
2004. 2.25	観測井（2 m）の新規掘削工事（日さく），センサー設置（クリマテック）
2004. 2.29	李 富龍氏（外国人研究者）帰国
2004. 3. 5	平成 15 年度陸域環境研究センター年次研究報告会開催
2004. 3. 8	平成 15 年度第 3 回運営委員会開催
2004. 3.15	浅沼 順講師 文部科学省在外研究員として渡米（Duke University）
2004. 3.31	野原大輔準研究員 辞職（2004.4.1 付）科学技術振興機構戦略的基礎研究推進事業（CREST）研究員として転出）
2004. 3.31	井岡聖一郎非常勤研究員 辞職（2004.4.1 付 核燃料サイクル開発機構東濃地学センター瑞浪超深地層研究所博士研究員として転出）
2004.3	実験室 ドラフトチャンバー更新
2004.3	会議室 資料の整理，センター長室に壁面書庫を設置

# 2003 年度 陸域環境研究センター談話会・巡検等の記録

- 2003.4.4 講演会 参加者 15 名  
李 富龍 (Catholic University of Daegu, Korea)  
Study of meteorological elements and evaporation near surface
- 2003.4.22 講演会・実験観察会 参加者 19 名  
和仁良二 (国立科学博物館)  
「アンモナイトの化石分布域は " 真の " 生息域を表しているのか ? - 流水路実験からのアプローチ - 」
- 2003.4.25 講演会 参加者 13 名  
小白井亮一 (国土地理院)  
「測量法の改正について - 世界測地系の導入 - 」
- 2003.6.13 講演会 参加者 17 名  
Mary Ann Madej (USGS, USA)  
Contrast in hillslope and channel response to two largestorms, Northern California, USA  
Tom Lisle (USDA, USA)  
Transport Capacity Reconsidered
- 2003.7.14 講演会・実験観察会 参加者 49 名  
Kazimierz Banasik (Warsaw Agricultural University, Poland)  
Sedimentgraph prediction for small ungauged basins
- 2003.7.28 講演会・実験観察会 参加者 23 名  
Nancy E. Brown (Colorado State University, USA)  
Patterns in pool sequences in mountain rivers: Pool characteristics and particle patterns from published studies and cellular models
- 2003.8.18 講演会 参加者 13 名  
菊池俊一 (北海道大学)  
「樹木年輪が語る利尻島土石流攪乱の歴史」
- 2003.8.28 講演会 参加者 8 名  
Chittaranjan Ray (University of Hawaii, USA)  
Transport of DBCP and EDB in the Pearl Harbor aquifer: A post-audit study
- 2003.8.29 講演会・実験観察会 参加者 17 名  
小玉芳敬 (鳥取大学)  
「鳥取県、千代川における砂礫波の移動・停止」
- 2003.10.31 講演会 参加者 13 名  
佐藤 浩 (国土地理院)  
「GPS で計測した新潟県小千谷市の地盤沈下について」

- 飛田幹男（国土地理院）  
「地下水の動きでわかるつくばの地盤変動」
- 2003.12.5 講演会 参加者 14 名  
小笠原憲四郎（筑波大学）  
「世界自然遺産カムチャッカ半島の新生界と大自然」
- 2004.2.28 講演会 参加者 60 名  
松本栄次（筑波大学）  
「熱帯ブラジルの自然」
- 2004.3.5 講演会 参加者 40 名  
鬼頭昭雄（気象研究所）  
「気候モデルによる過去・現在・将来のモンスーンシミュレーション」
- 
- 2003.5.22 大気境界層における乱流フラックス研究会 参加者 18 名
- 2003.6.14 巡検「鬼怒川下流の河道形状—鎌庭の捷水路から利根川合流点まで—」  
案内：池田 宏（筑波大学） 参加者 13 名
- 2003.8.19 巡検「鬼怒川下流の河床に出現した埋没林を見る」  
案内：池田 宏（筑波大学） 参加者 13 名
- 2003.11.8 巡検「霞ヶ浦の流域環境を探る（第1回）」  
案内：池田 宏（筑波大学） 参加者 29 名
- 2003.12.6 巡検「霞ヶ浦の流域環境を探る（第2回）」  
案内：池田 宏（筑波大学） 参加者 35 名

## 陸域環境研究センター 热収支・水収支観測資料について

下記の表は学内外の利用希望者に対する利用できるデータの種類、収録期間、メディアの種類、利用方法を示す。利用希望者は、データ利用願い (<http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/new/use/use.html#4>) を記入の上センター宛提出されたい。

データの種類	収録期間	メディア	利用方法
1時間ごとの全測定項目および、日平値（または日積算）値・日最小値・日最大値が入った月ごとのアスキーファイル	1981年/11月～現在	陸域環境研究センターのホームページ	<p>陸域環境研究センターのホームページ (<a href="http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/">http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/</a>) のTERC热収支・水収支観測データベース (<a href="http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/højyo/Japanese/database.html">http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/højyo/Japanese/database.html</a>) にアクセスする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●月ごとのデータは、(<a href="http://højyo.suiri.tsukuba.ac.jp/højyo/archives/monthly/">http://højyo.suiri.tsukuba.ac.jp/højyo/archives/monthly/</a>) に保存されており、ファイル名のつけ方は次の通りである。Dyy-mm.DAT, yyは年, mmは月を表している。例えば、2002年4月のデータは、D02-04.DATである。</li><li>●年ごとに圧縮されたデータは、(<a href="http://højyo.suiri.tsukuba.ac.jp/højyo/archives/yearly/">http://højyo.suiri.tsukuba.ac.jp/højyo/archives/yearly/</a>) に保存されている。圧縮形式はlzh形式またはtar + gzip形式である。</li></ul>
上記データのプリントアウト	1983年/7月～2003年/3月	冊子体(3枚/1日) 一冊/3ヶ月	コピーをとるか(*), 写し取り, 利用する。または貸し出しを行うので(一週間まで)持ち帰つて利用する。
測定項目ごとの1時間ごとのプリントアウト	1989年/1月～利用時の1-2年前	冊子体 1枚/1月	同上
各項目の日平均値のプリントアウト	1989年/1月～利用時の1-2年前	冊子体 (センター報告) 1ページ1年	同上
各項目のアナログ出力を記録したチャート	1980年/1月～2003年/3月	チャート 一冊/1月	コピーをとるか(*) センター内で読み取る。

(\*) センターのコピー機を使う場合、学生用コピーカードを使用し、何枚使用したかを記録用ノートに記入する（教職員の場合は本人あてに、学生の場合は指導教員あてに利用額が後ほどセンターから請求される）。